

# おおの・サテライト・キャンパス・プラン 地方中山間集落におけるパートナーシップの「地域力」づくり

「また村が一つ消えようとしている」  
近年、各地に出かけると、ここかしこで自治体の名前が変わっていることに気づく。無論、地域そのものがなくなる訳ではないが、市町村合併による地方合理化の波は、地方のあり方を大きく変えようとしている。

岩手県九戸郡大野村もその一つである。来年より、隣接する種市町と合併し、洋野町として新たな門出を迎える予定である。

地方は、これまでの都市部への人とモノとの供給だけでは成り立たず、深刻な活力低下に悩んでいるだけでなく、同村でも、自然の中にいながら「テレビゲームで遊ぶ」ことも多いというように、情報とモノの逆流により、地域が一様化してきた。この再編による自治体間競争時代を前にして、中途半端なリストラでは解決のしない、地域のあり方が改めて突きつけられている。

その中で、これからの地方中山間地域の地域づくりを考えるべく、大野村と各集落を舞台に、行政、大学、地域とともに協働しながら、模索してきたことについて報告したい。

## ■サテライト・キャンパス・プラン

大野村は、岩手県北部内陸に位置する、人口約6千人の、畜産・農業を中心とした、典型的な中山間農村集落の自治体である。同村では、かつては宿場町でもあった中心部「おの地区」と、年間30万人の集客力をもつ「おおのキャンパス」(産業デザインセンター)という二つの核を持って孤立した構造を抱えている。そこで、同村では、平成12年度より東京大学都市デザイン研究室をまちづくりアドバイザーとして、行政・地域とともに中心地区の活性化および周辺集落の地域づくりを推進してきた。中でも、核と周辺集落と

が連携することにより、集客・地域活性化の相乗効果をねらう「サテライト・キャンパス構想」の提案とその考え方は、大野村総合発展計画(後期計画)にも位置づけられた。

ここでは、周辺集落をおおの地区、向田地区、林郷地区、帯島地区、水沢地区という、小学校区を中心とした五つの地区で捉え、各集落がそれぞれの地域の個性・活力・資源を活かす「地域力」づくりと相互連携が目標とされた。また、これらを推進するために、「夢市」と呼ぶ中心部再生のためのイベントや、サテライトと呼ぶ農産物の加工施設の各集落への建設などのキッカケづくりを行うとともに、各地域では、「地域づくり推進部会」という、地域住民で構成する組織をプラットフォームとして、地域づくり計画を協働で策定してきた。

## ■「みっちゃあミュージアム構想」

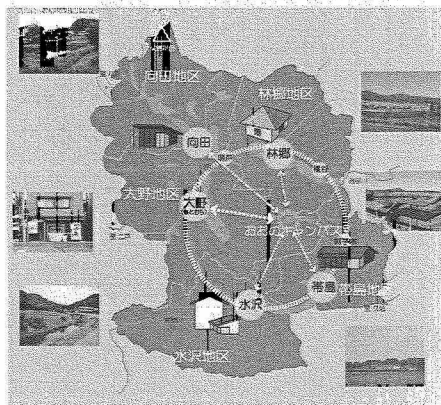
昨年度、今年度と、地域の中でも去る9月25日、今年も開催されてきた祭りの祭りで、地域の個性づくりのための実験を行った。水沢地域には、「芝棟」と呼ばれる棟の上には、草の載った茅葺き民家が残存する。中でも、かつての南部文化を象徴し、かつ現在では村唯一になってしまった曲家を所有者にご協力いただいで開放実験を行った。今年度から操業しているパン加工施設「おおのパン工房」も協力して、展示と休憩の出来る「縁側カフェ」を一日開催し、雨の降りしきる中、地域の中高生がお店を切り盛りし、大盛況であった。

## ■都市デザインから村づくりへ「地域力」づくりに向けて

最後に、大学の立場から。何故都市デザイン研究室が村づくりなのか。ここでの地域づくりは、都市部とは違った状況が存在する。中山間集落では、自身は地域づくりの活動をしたけれども、何をどうすればいいのかかわからず尻込みしてしまうことも多いため、初期の目に見えるキッカケづくりに重点がおかれた。

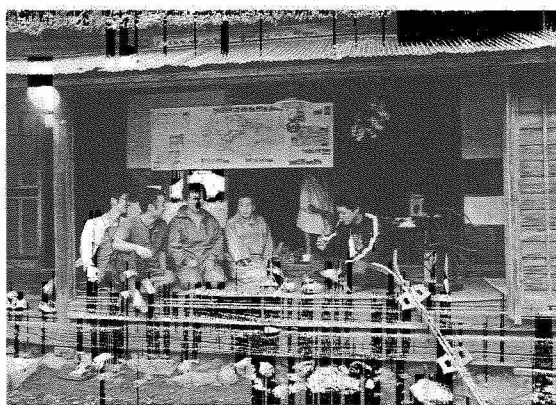
一方、これまでのような「都市農村」のシステムは崩壊し、それぞれの地域が自律的に自分たちの「あり方」を問われている中で、「地域」の単位から始まる「強さ」地域力にカギがあるという意味では都市デザインも地域づくりも変わらない時代が到来している。一地域の問題でありながら、全国的な問題である。市町村合併を迎えた後、これらの地域活動がどのように受け継がれるかという課題が残る。各地域の個性、そしてこれを活かすための戦略単位の創造―行政の枠組みに左右されない強い「地域力」が道を切り開く。

水沢地域のように「元氣な地域力の遺伝子が継承され続けることを願うばかりである。(野原卓/東京大学)



サテライト・キャンパス構想

曲家を利用して行われた「縁側カフェ」(2005年9月「みずさわ縄文きてける祭り」長月)



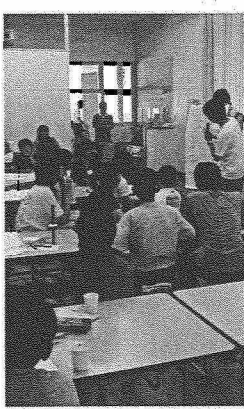
地域の中高生組織「プロジェクトJ」による看板づくり



水沢と呼ばれる地域において、民官学の連携したパートナーシップの地域づくりを展開している。水沢地域づくり推進部会を中心に、昨年度一年間かけて、統合により空いてしまった旧水沢小学校の使い方とコミュニケーションの再構築に始まり、地域資源探しの調査やワークショップを通じて、地域について議論してきた。その上で、文字通り「沢」や茅葺き、自然に囲まれた水沢地域が持つ「田舎らしさ」を保ちつつ、地域の活動により地域を彩る「みっちゃあミュージアム構想」を策定しながら、同時に、年度内に随時行われた地域のイベントでは、この計画と連動しながら、地域づくりの試みが行われた。

## ■プロジェクト「J」

筆者の経験では、こういった地域おもひでぼろぼろ



■曲家開放実験「縁側カフェ」